

## kintone SIGNPOST 事例分析ワークショップ

### 【ワークショップ概要】

これからkintoneの導入を考えているチームに対して、kintoneの考え方に親しみ、運用方法に関するイメージを持ってもらうためのワークショップです。事前に用意したケースシナリオのストーリーを読み込み、kintone SIGNPOSTのパターンを使って事例分析を行います。

### 【ワークショップの目的】

- kintoneの考え方について触れ、運用のイメージをふくらませる
- kintone SIGNPOSTのパターンと親しみ、内容の理解を深める

### 【セッティング】

大きめのテーブルを挟んで、ファシリテーター（1~2名）と参加者（1~5名程度）が向き合うように座る。テーブルの上に模造紙を敷き、各種文具などを並べる。オフライン・対面形式で開催することを推奨しますが、各種オンラインツールを用いてリモート開催することも可能です。

### 【所要時間】

30~60分程度

### 【準備物】

- kintone SIGNPOSTパターンカード
- ケースシナリオを印刷したもの：参加人数分
- 鉛筆：参加人数分

## 【ワークショップの流れ】

### 1. チェックイン (5分)

簡単に、ファシリテーター含め各参加者が一言ずつ話す場を設けます。形式は自由ですが、下記に一例を挙げます：

- ・ 名前（呼ばれたい名前）
- ・ 今の気分
- ・ 本日のワークショップに期待すること

(一人1分程度)

### 2. kintone入門・kintone SIGNPOST紹介 (10分)

スライドや配布資料やを用いて、kintoneとkintone SIGNPOSTの基本的な内容について共有します。こちらも形式は自由ですが、下記内容を含めるとよいでしょう。

#### A. kintoneの紹介

- ・ スライドや資料などを使い、kintoneに関する基本情報をシェアします。

#### B. kintone SIGNPOSTの紹介

- ・ スライドや資料などを使い、kintone SIGNPOSTの紹介を行います
  - ・ kintone SIGNPOSTとはなにか、どのように作成されたのか
  - ・ どのように使用していくのか
  - ・ 全体像の紹介
  - ・ メインパターンを中心にkintone SIGNPOSTの重要パターンと、関連するパターンをいくつかをピックアップして紹介

### 3. シナリオ紹介・読み込み (5分)

今回のワークショップで扱うシナリオを読み込みます。シナリオは、1ページほどの分量で、kintoneの導入を検討しているチームの仮想的なストーリー用意します。

(チームの業界やニーズに合わせての複数パターンのシナリオを用意しておくとい良いでしょう。また検討開始から運用まで一気通貫のシナリオではなく、導入の各フェーズごとに分割したシナリオを用意しても良いでしょう。)

### 【読み込みの手順】

1. 5分ほどで、参加者にシナリオを読み込みます。
2. 読み込む際、シナリオの良い点（適切にkintoneの運用をできている描写）や悪い点（改善の余地がある描写）の部分に鉛筆で線を引いたり、メモを書き込んだりします。

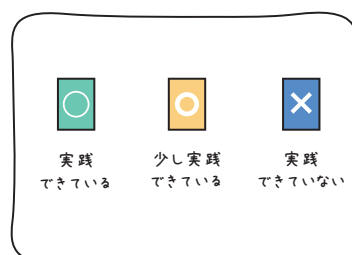
注：この時点では、kintoneや各パターンの理解の正誤は気にせず、このあとのディスカッションのための個人的なメモで構いません。まだすべてのパターンに触れているわけではないので、直感的な善し悪しで判断して構いません。

## 4. 診断ワークショップ（15分）

kintone SIGNPOSTのパターンを番号順に検討しながら、シナリオの診断を行っていきます。時間に余裕がある場合は全パターン使用しても良いですが、今回のシナリオに特に関係するパターンのカードのみ事前に組んでおき、使用するのでも構いません。

### 【手順】

1. テーブルを3つのエリアに分け、それぞれに「実践できている」「少し実践できている」「実践できていない」と書かれたカードを設置します。
2. kintone SIGNPOSTのパターンカード（番号順になっている方が良い）をデッキの状態テーブルに置き、参加者の一人が上から一枚引きます。
3. 引いた人は、パターン名とパターン本文を声に出して読み上げます。
4. 同じ人が、シナリオの内容をもとに、そのカードを「実践できている」「少し実践できている」「実践できていない」いずれかのカードのそばに配置します。その際、そこに配置するべきだと思う理由を、シナリオ内の出来事などを参照しながらグループに発表します。
5. 他の参加者は、その配置に賛成・反対を述べ、議論をし、最終的な配置を決定します。
6. 次の人がカードを引き、すべてのパターンが配置されるまで繰り返します。



## 5. 総合・振り返り（5分）

- すべてのカードの診断が終わったら、配置されたカード全体を見返し、総合的な評価を行います。最後に、一人ずつ感想を述べてワークショップを終了します。